中国

海外事情

OVERSEAS LANGUAGE AND CULTURE COURSE

本学の科目「海外事情」は夏期短期海外留学であり、大学公認の単位付き海外語学研修です。
実際に海外へ赴き、本学と国際交流協定を結んでいる海外の大学において語学研修を行うとともにその国の文化や歴史などを体験することによってグローバルに活躍する人材を育成します。

開講学部：経営情報学部／情報メディア学部／医療情報学部	
種別：選択	**配当年次：**1・2・3・4年
単位数：2単位	**開催時期：**夏期集中
評価：研修（「海外事情（中国編）」・2単位）の評価は、研修先での成績と、受講生が本学担当教員に提出するレポートにより総合的に判断する。	
留学先：南京大学 海外教育学院／中国江蘇省南京市漢口路22号	
電話：0086-25-83593587	**FAX：**0086-25-83316747
日程：8月上旬～9月上旬（約4週間を予定）	
申込期間：4月下旬より開始	**参加人数：**20名
参加資格：本学で中国語を履修している全学生および通信教育部の正科生B	
参加費用：約220,000円※（入学申請費＋授業料学費は北海道情報大学が補助）	

※宿泊費、上海、蘇州観光費、研修旅行費、海外旅行傷害保険料などを含む概算金額です。
そのほか、日本国内の交通費および自分の小遣いなどが必要です。
※上記はすべて平成26年度の内容となっています。何卒ご了承ください。

中国「南京大学」への留学

世界一話される言語、中国語を学ぶ。

参加学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し、その後の中国各地への研修旅行を通して、実践的な語学力を体得し、かつ現在の中国事情と中国文化に対する理解を一層深めることを目的としています。本学と国際交流協定を結んでいる南京大学で、夏期休暇期間に3週間程度の中国語研修を実施し、その前後5日間程度の研修旅行を行います。切り絵や水墨画などの中国文化体験や太極拳等がカリキュラムに組み込まれている日もあり、1日を通して充実したプログラムが魅力です。また、本留学には、学生各自が異文化理解の能力を向上させると同時に、国際的視野や見識も養成させるねらいがあります。

アジアの時代に生き抜く力を。

現在、中国語は世界で最も多く話されている言語です。中国市場は勢いよく広がりつつあり、中国を知ること学ぶことは、これからの時代を生き抜く中で非常に重要な戦力となります。

国際交流の歩み

1999年　8月　第1回の中国短期留学が実現。
2002年　夏期短期留学を実現。
2004年　第5回、中国夏期短期留学で、参加学生18名。
南京大学側で本学への編入学を目的とした「留学共同プロジェクト」スタート。
2005年　南京大学側の教職員や学生が日本文化研修のため来日。
2006年　第2期編入学生受け入れ準備のため教職員が訪中。
第2回 日本文化研修開催。
2007年　南京大学の施建軍副学長の来学。
第1期編入学生の本学への入学式。
王守仁外語学院長の来学。
2009年　第3回 日本文化研修開催。

本学における南京大学との交流は、故松尾三郎前理事長の「情報化と国際化」に向ける情熱によってスタートしました。「情報化が進めば、世界との距離が格段に近くなる」。少しでも早く、次世代を担う若者たちに必要なフィールドを整え、情報のグローバル化に備えるという責務を感じてのことでした。
1983年には中国から留学生を招聘し、2年間に渡る情報技術研究を実施。これを機に、南京大学との交流が更に深まり、1994年には松尾三郎前理事長が、名誉ある南京大学顧問教授の称号と、大学での研究室を頂戴しております。
残念なことに、松尾三郎前理事長は1998年に永眠。その遺志を引き継ぎ、翌1999年5月、電子開発学園松尾泰理事長と陳駿南京大学副学長（当時）との、両大学の国際交流協定の調印が執り行われました。そして同年8月、記念すべき第1回中国短期留学が実現しました。この夏期中国短期留学には12名の学生が参加、翌2000年には10名、2002年には13名と続き、2004年には18名という多数の参加が実現し、海外留学、また中国に対する本学生の関心度の高さを伺い知ることができました。参加した学生によるレポートには、「歴史ある文化と大きく成長する新しい中国に触れたことへの充実感、外国語を学ぶことの難しさと意義」に対する感動の言葉がつづられています。11回目となる2011年度は19名、12回目となる2012年度は9名の学生が参加し、これからの未来に向け、また新たなステージが展開することでしょう。

CHINA

広い国土に世界一の人口を抱える大国。

13億を超える世界最大の人口を擁し、国土もロシアとカナダに次ぐ世界第3位の面積を誇る中国。人口の94%を占める漢族のほか、チワン族、ウイグル族、モンゴル族など55の少数民族からなる多民族国家である。また、朝鮮民主主義人民共和国、ロシア、モンゴル、カザフスタン、インド、ネパール、ベトナムなど、もっとも多くの国と国境が隣接している国でもある。

南京大学担当者からのMESSAGE

日本には遠い親戚より近くの他人という諺があります。中国と日本はただの近くの他人だけではなくて、近くの他人よりもっといい隣国だと思います。どんなことがあっても、中国と日本は、良い隣国にならなければならないのです。相互理解は良い隣国になる道への唯一の方法でしかありません。交流はまた理解への道です。また、言葉の勉強は交流の始まりです。言葉の勉強によって我々の人生をより豊かなものにしましょう。

南京大学
外国語学院 副院長
汪　平先生

中国には「民以食為天」という諺があります。いわゆる「民は食を以て天と為す」という意味であります。この諺から中国人には食事がどれだけ大切なことかを垣間見ることができると思います。ことばを覚える方法はいろいろあると思いますが、その国の文化を体験するのが一番です。ですから皆さん、中国を訪れたらまずは、中国語の勉強を本場の中華料理のツアーからスタートするのが良い方法だと思います。

南京大学
外国語学院弁公室主任
陈　华先生

南京市ってどんな街？

南京市は、中華人民共和国の副省級市で、古くから長江流域・華南の中心地として10の王朝が都を置いてきた歴史ある都市です。また、2500年の歴史を誇る南京市は古代から現代までの様々な歴史遺産があり、中国国内でも観光地としても有名で、全国優秀観光都市にも選ばれています。「緑の都」としても知られており、緑化率は街全体の40%以上を占め、旧市街を取り囲んだ南京城壁は世界最大として知られており、山、水、城、森が一体化した景観が美しいだけでなく、教育の面でも優れた都市で、1907年創立の南京図書館や、全国第2位の収蔵を誇る南京博物院など文化事業も充実した都市です。

南京大学の特長

南京大学の創立は1902年。中国でもっとも歴史ある大学のひとつとして知られる、中国国家教育委員会直属の重点総合大学に指定されています。長江下流の街、中国4大古都の一つ南京に位置し、中国で最初に外国人留学生を受け入れた大学の一つでもあり、今までには世界70以上の国や地域からの留学生が南京大学で学んでいます。その総数は1万人以上に及び、特に韓国・日本・ドイツからの留学生が多くを占めています。留学生の受け入れ体制が整っており、中国語初心者には経験豊富な教師が語学教育にあたるなど、留学生に対する体制はますます充実しています。学習環境も良好で、風光明媚、気候が穏やかで過ごしやすく、環境が整い交通も便利です。設立されて以来、広く国際交流を行っており、世界中の多くの一流大学や研究機構との間に協力関係を築いています。

2014年度 夏期中国短期留学実施内容

8月	7日(木)	8日(金)	9日(土)	10日(日)	11日(月) ～ 29日(金)		30日(土)～9/2日(火)	3日(水)
8:00~10:00		上海観光(外灘、豫園、上海博物館など)	蘇州観光(寒山寺、虎丘など)後、南京着	南京大学での中国語研修開学式	中国語短期研修(3週間)		北京への研修旅行(万里の長城、頤和園、天安門、故宮、王府井など)	8:00 北京空港発 (中国国際航空)
10:00~12:00								
12:00~14:00	13:30 関西空港発 (中国国際航空)							12:40 関西空港着
14:00~15:00						中国語研修終了式及び送別会		
15:00~	15:00 上海着							

実際に自分の目で見て中国の印象が一変しました

経営情報学部 システム情報学科 2 年
高原 智也さん

国際交流サークルとの交流が留学の後押しに

僕は大学に入る前から一度は海外留学をしてみたいと思い、留学説明会に参加したのですが、メディアで中国に対する悪い情報ばかり入ってきていたので、なかなか一歩が踏み出せませんでした。そんな中、国際交流サークルで中国人留学生と交流する機会を持ち、話す中で今まで自分が抱いていた中国人のイメージとは全く異なることから、自らの目で本当の中国を見てみたいと中国留学を決意しました。滞在中感じたことは、日本人にそれほど悪印象を持っておらず、観光地でも人ごみの多い所は必ず警官がいて治安も良く、安心して過ごせました。北海道情報大学に留学予定の学生と親しくなり、観光地や地元の人しか知らないグルメなどを堪能し、勉強だけではなくプライベートでも充実した留学生活をおくれました。

帰国後に感じたことは自分が

留学で自分の視野の広がりを実感

当たり前だと思うことが、実は世界的に見て当たり前ではないと気付くことができました。また、メディアを通して得た知識だけではなく、実際に自分が行動して状況を確認することの大切さを痛感しました。

STUDENTS' VOICE

他大学の留学生との交流が大きな刺激になりました

経営情報学部 システム情報学科 2 年
扇谷 翔太さん

留学担当教諭の後押しで中国留学を決断

僕が中国留学を決めた理由は、取りあえず海外に行ってみよう、どうせなら履修している中国語を生かしたいという思いからでした。当初は一ヵ月も中国に行くのは少し不安でしたが、担当教諭の玉置先生からの後押しもあり、応募締め切りの一週間前に決断しました。その分、現地で通用する中国語を身に付けるために必死で勉強したのも今ではいい思い出です。今回の短期留学は 3 人しか居なかったので、同じ日にイギリスオックスフォード大学から留学した留学生と一緒のクラスで学びました。大学では、中国語の会話練習や中国の歴史、書道、太極拳について学びましたが、イギリスの学生も一緒なので結果として英語の勉強にもつながりました。

ネイティブにも通じる語学力獲得が目標

今回の留学を通じて、今までは英語や中国語は、国語や数学のように一つの教科としか考えていませんでしたが、実際に海外で一ヵ月過ごすうちに、外国語を学ぶこと=外国の人とコミュニケーションを取る手段を獲得することだと気付くことができました。今回の経験を糧にさらに中国語に磨きを掛けたいと思います。

TEACHERS' MESSAGE

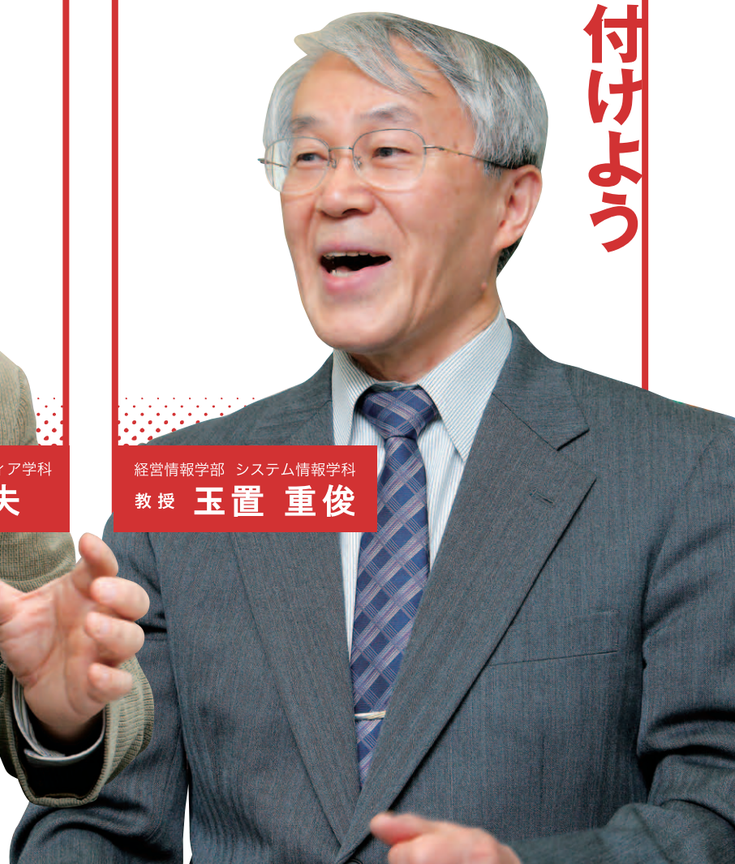
リアルな日中関係を知る機会がここに

中国短期留学は、現地での見学を通して、日本で体験できなかったことが分かり、日中間の考えの違いや中国人の日本人に対する考えを知ることができる機会です。価値観の違いや現地の中国人の日本人に対する考えを生の情報として得ることで、客観的に日中関係の現状を見ることができ、今後における日中関係の改善に貢献できると思います。大学生時代は視野を広げることが大事です。異文化交流は視野を広げる近道であり、中国語短期留学はその交流のチャンネルです。ぜひ利用して欲しいです。

情報メディア学部 情報メディア学科
教授 **田中 英夫**

自信と無限の付加価値を身に付けよう

留学生として第一には、まじめに中国語に励む情熱と姿勢がもちろん大切ですが、現地での生活環境や習慣にも早く溶け込みながら、中国と中国人に対する見識を一段と高めて、異文化を理解する能力もしっかり養成して欲しいと考えています。事前に中国語の勉強会などスキルアップの機会を設けてサポートはしっかりと行っていますので安心してください。私が言いたいことは、一つだけです。何を迷っているのですか、絶対に後悔はしないから、今年は必ず参加して、自分自身に無限の付加価値を付けてください。



経営情報学部 システム情報学科
教授 **玉置 重俊**

HIUワールド

南京大学との国際交流。

日本×中国 留学共同プロジェクト

南京大学外国語学院日本語学部での2年間の課程を終えた学生が本学へ編入できるこのプログラムは、双方の大学で勉強ができるという大きな魅力があり、2007年に1期生を迎えてから毎年多くの編入生が本学に入学し、2014年には8期生を迎えました。加えて南京大学からは聴講生なども留学しており、現在では約40名を超える在学生が本学での勉学に励んでいます。

南京大学から本学への留学課程の中心には「ITと日本語」という二大要素があり、伸びゆく情報化社会への取り組みと日本語の習得に、中国の若者から強い関心が寄せられるプロジェクトとして本学の国際化の柱とも言うべき交流として成り立っています。

留学生達は、日本での慣れない生活や本学生との交流、言葉の壁に苦労しながらも、だからこそ充実した毎日を送っています。

また本学の学生にとっても、中国からの留学生と交流することはかけがえのない経験となっていると考えられ、授業や部活、各種のイベントを通して両国の学生の友情が育まれています。

弁論大会にて

弁論大会にて

編入学生キャンパスカレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月
●入学式 ●歓迎食事会	●日帰り研修	●体育祭 ●企業見学会 ●日本語弁論大会	●江別市民宅へホームステイ開始		●聴講生受け入れ ●社会見学
10月	**11月**	**12月**	**1月**	**2月**	**3月**
●蒼天祭 ●日中学生文化交流会	●宿泊研修	●餅つき大会			●卒業式 ●新入学生受け入れ ●社会見学

国際交流・留学生支援事務室の職員と共に